

現代住宅作品における関係の複合性(1)

—作品解説からみた空間構成要素と結合パターン—

複合性 関係 現代住宅作品 言説 建築家

1. 序 建築家は設計過程において、様々な水準における物事の関係を思考することで空間を構築している。このような立場からは、建築を、建築家によって思考された関係性の総体として位置付けることができる。つまり、実体としての建築は多様な関係が複合されることで立ち現れるとも言え、それは建築の構成のみからは捉えることができないものを含み込んでいると考えられる。そこで本研究では、建築家が思考する建築の複合的な関係を言説から浮き彫りにし、建築家が空間を構築する上での関係性に関する思考の枠組の一端を明らかにすることを目的とする。

ここでは住宅設計に際して建築誌に発表された建築家による「作品解説」を資料¹⁾として扱い(表1)、関係の複合性を読み取る上で重要だと思われる要素を「空間構成要素」とし、それらがどのように関係づけられているのかが明確に語られている箇所とともに言説から抽出することで全資料についての関係図式を作成した(図1)。この関係図式は、空間構成要素のカテゴリーを記号化して縦軸とし、空間構成要素の分布を横軸に表した記述方法であり、建築家が実体的な要素同士をどのように関係付けて思考しているのか、すなわち「関係の疎密」を資料毎に比較可能なものとして捉えるための図式である。まず本編では、言説に現れる空間構成要素の内容とその基本的な関係のあり方についてみる。

2. 言説における空間構成要素と関係の表現 言説から抽出した空間構成要素を、その内容について分類・整理すると(表2)、「材質・仕上げ」「室」「部位」など建築そのものに関わる「建築構成要素」と、「敷地」「隣接要素」「自然環境」などの「外部環境要素」の2つに大きく分類された。この中で「ボリューム・形態」は、建築構成要素と外部環境要素の両水準で捉えられる点で他のカテゴリーと異なっている。

また空間構成要素が、どのような性格の関係として表現されているか、つまり関係の内容についてみてみると、大枠3つに整理された(表3)。<動線的接続>は人の移動についての関係であり、<視線的接続>は要素同士の視覚的な関係である。これらはいずれも建築における直接的かつ具体的な関係であるといえるが、一方<意味・現象的な関係>は、建築家が実体的な要素相互の関係に対し、観念的あるいは感覚的・現象的な関係を見出すものである。空間構成要素の関係は、その多くが<意味・現象的な関係>であり、これに加えて<動線的接続>と<視線的接続>を補助的にみていくことで、建築家の思考する関係の表現を大枠捉えることができる。

3. 結合パターンとその組合せ 次に、上で分類・整理した空間構成要素の内容および関係の表現を基に、全資料について関係図式を作成し(図1参照)、そのトポジカルな性格についての検討を行う。

関係図式における空間構成要素の結合の仕方を相対的に検討したところ、《放射型》《鎖型》《包含型》《集合型》という4つの結合パターンが導き出され(表4)、全ての関係図式はこれらの結合パターンの組合せとして捉えることができた。

正会員 青木 弘司 *
同 山田 淳 **
同 佐々木 夕介 ***
同 ○ 丸山 友士 ***

表1 資料リスト

No.	掲載年月 論文名	建築家
1	JT9701 新しい「イナカ」を求めて	林雅子
2	JT9702 世界の模様(magico mundi)としての住宅を	藤木隆男
3	JT9703 ネイティックキューブと錯覚概念	山下秀之
4	JT9703 いろいろな関係 -2	吉井歳晴
5	JT9705 住宅における建築性	椎原リヨク
6	JT9707 丸太柱と鉄のビーム	石井和鉄
7	JT9710 建築のエコメライゼーション	長田直之・清水裕二
8	JT9712 ふたつの色彩がつくる明と暗のバイフレーション	平倉直子
9	JT9712 スカートの風	千葉学
10	JT9801 設計ノート	早川邦彦
11	JT9801 すまいのヴァイタライズ	斎藤裕
12	JT9801 水	前田紀貞
13	JT9802 壊れたものを直すということについて	宮本佳明
14	JT9802 住宅の「裏方」について	原木由晴
15	JT9803 生活を変える道具	北山恒
16	JT9804 空を望む目	竹山聖
17	JT9805 世界一内一住居	前田忠直
18	JT9807 算序をめる冒険	斎藤裕
19	JT9809 住まいのがりがつくる建築	遠澤正信
20	JT9809 飢物の生氣	石山修武
21	JT9811 生活の全体	西沢立衛
22	JT9811 「考え方の家」についての考え方	タカマスヨシコ
23	JT9811 「住むことの構造力	葛西潔
24	JT9812 白のリフレクション、もしくはエコーズ	米田明
25	JT9901 住宅を設計するということ	岸和郎
26	JT9901 都市のフサード	石田敏明
27	JT9901 住宅設計の条件について	坂本由緒
28	JT9901 太郎松でダメタシ	萬森照信
29	JT9902 小住宅における場所性	椎原リヨク
30	JT9905 SLIM	山下秀之
31	JT9905 郊外住宅の神話	渡辺真理・木下庸子
32	JT9906 具体的な変容	東豊男
33	JT9906 空間ウォリュームと居住性	趙賀克郎
34	JT9908 構成を表現を捨てること、及び互換性について	青木淳
35	JT9910 ウチとソのうち	平倉直子
36	JT9910 新しい技術が新しい住まい方を	園山裕雄
37	JT9911 タワールームの天花板は青い空	椎名英三
38	JT0001 施主に暮らすために、いかに切り捨てるか	伊藤寛
39	JT0002 折りたたまれたワールド	佐藤光彦
40	JT0002 結論としての住宅	小山隆治
41	JT0002 新しい風景に住み込む	入江正之
42	JT0002 フィルタリングについて	渡辺真理・木下庸子
43	JT0003 環境と「生活のアリティ」をつなぐもの	宮本佳明
44	JT0003 未知の近代建築に向けてVI	岡河寛
45	JT0004 「いたれりつくせり」でないこと	青木淳
46	JT0004 アルミの向への期待	伊東豊雄
47	JT0004 GEO-FLUXUS	田島則行
48	JT0005 現代という時間軸を通してヴァニキラーな建築を通して	久保清一
49	JT0007 ゆるやかに世界とつながっていていいと考えて	花田佳明
50	JT0009 田園風景と白い幾何学	山名善之
51	JT0009 What's DOMINO now?	松本正
52	JT0011 in-house その場の記述法について	阿部仁史
53	JT0103 建築、直感、ORDER: 心の宿る場所を求めて	矢板久明
54	JT0103 REFRACTION	竹山聖
55	JT0107 非住宅という住宅	趙田雅春
56	JT0108 編物の再トース	佐藤光彦
57	JT0108 屋根の上と屋根の下	手塚貴機+手塚由比
58	JT0109 建築の内部について	岸和郎
59	JT0110 若楽園へ敷地(斜面)を使いたいおことについて	宮本佳明
60	JT0112 通勤・都市居住・収納	渡辺真理・木下庸子
61	SK9906 浮き出させること	遠藤政樹+池田昌弘
62	SK0003 地形のもう微差をつなぎ合わせ環境と連続させる	石田敏明
63	SK0006 共鳴体の存在強度に向けて	田島哲史
64	SK0006 【互換性・領域】	八重樋直人
65	SK0010 現代のヴァイタリズムにおける建築とランドスケープの関係について	宇野重
66	SK0101 【中心性・無機】	八重樋直人
67	SK0102 ストラクチャによる「宅地」の再定義	宮本佳明
68	SK0102 運織化された全体	北山恒
69	SK0102 * 1	米田明
70	SK0103 家・記憶をつなぐ庭	古谷誠章
71	SK0104 備慮	青木淳
72	SK0111 都市の中の隠れ家	石田敏明

表1註:掲載年月のJTとSKは各々『新建築住宅特集』と『新建築』を示す
空欄(*1)は論文名の無いものを示す

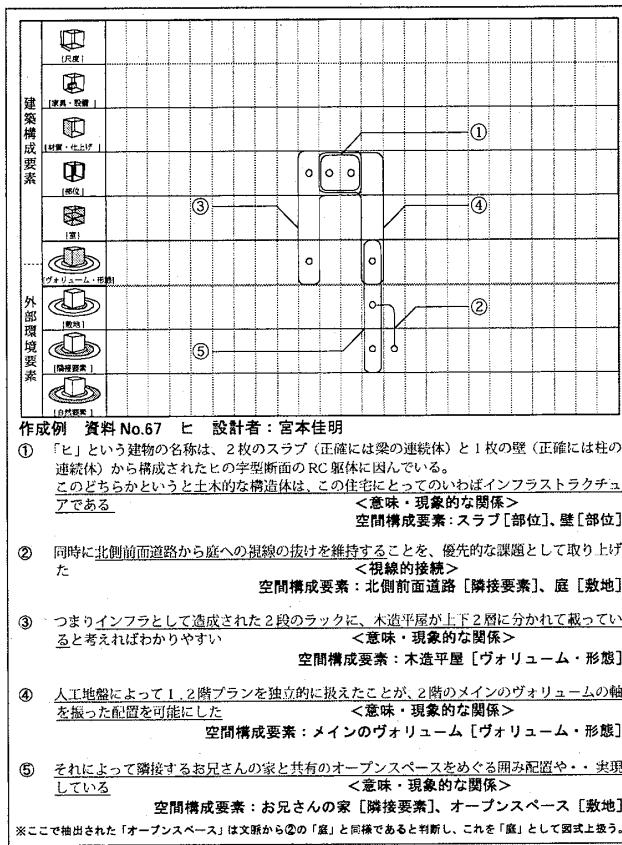


図1 分析方法

表2 空間構成要素のカテゴリー

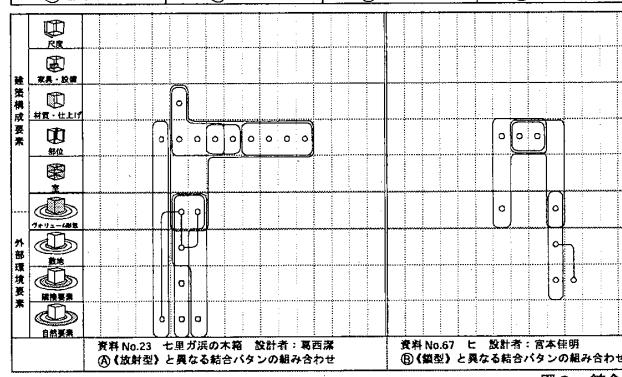
[尺度]	[家具・設備]	[材質・仕上げ]	[部位]	[室]	[ボリューム・形態]	[敷地]	[隣接要素]	[自然要素]
建築構成要素					外部環境要素			

表3 関係の表現：抽出例

○-----○ <動線的接続>	・地階は農機具や収穫物の貯蔵庫で、主屋のデッキ下に設けられた外階段によって直接外部につながるとともに、上げ蓋でキッチンに出入りすることができる (1)
○---○ <視線的接続>	・斜面に広がる各家々の屋根と、光る海と、対岸の大坂が見える (49)
○○○ <意味・現象的な関係>	・ただここで単に風景を取り込むのではなく、実物として見える外の緑の風景を、ガラスと天井のプラスチックシートの反射によって「拡大」して取り込もうとしている (21)

表4 結合パターン

Ⓐ《放射型》	Ⓑ《鎖型》	Ⓒ《包含型》	Ⓓ《集合型》



* 藤本壯介建築設計事務所
** 室蘭工業大学建設システム工学科講師
*** 室蘭工業大学大学院

これらの結合パターンのうち、《放射型》《鎖型》《包含型》は、空間構成要素の関係が二重になる部分をもち、建築家の関係に対する思考の密度が高い部分であるとみることができる。このような結合パターンあるいはその組合せの中に現れる「関係の疎密」は、建築家が実体的な要素同士をどのように関係付けて思考しているのかを読み取る上で重要であると考えられる。この密度の高い部分を、建築家の思考における“重心”と位置付け、以下この重心の分布の仕方によって各結合パターンをみていく。

《放射型》は、ある特定の空間構成要素にあらゆる関係の表現が集中するもので、ここに建築家の明快な思考の重心を読み取ることができる。《鎖型》は、関係の表現が鎖状に重なり合いながら図式中に分布するもので、建築家が部分に重心を分散させながら、同時に要素同士の関係に対して連続的な思考をしていると捉えられる。《包含型》は、関係の表現が二重に包含されることによって関係図式が形成されるもので、建築家がある空間構成要素のまとまりに対し、複数の意味内容を同時に思考していることを読み取ることができる。《集合型》は、以上のような結合パターンとは異なり、思考の重心を持たないもので、作品の主題や、特徴的な性質といった1つの意味内容のもとに、空間構成要素の関係が思考されているものとして捉えられる。

以上で整理した4つの結合パターンは、その多くが複数の結合パターンと組合されることによって関係図式をつくり出しており、それらの様々な組合せを検討することから、各結合パターンが持つ性格を超えた、建築家の要素同士の関係に対する思考のあり方をみることができる(図2)。例えば(23)は、<意味・現象的な関係>と<視線的接続>が特定の空間構成要素、あるいはそのまとまりを中心に《放射型》をつくり出しているが、《包含型》《鎖型》を伴うことで、思考の重心を分散させている。このことから、ある特定の空間構成要素に明快な重心を置きながらも、全体として連続的な関係を思考していると考えられる。

4. むすび 建築の複合的な関係をみるために、言説に現れる空間構成要素とその関係の表現を基に関係図式を作成し、それらの結合パターンについて明らかにした。また建築家の思考の“重心”に着目することから、結合パターンの組合せにおいて、特徴的なものをみることができた。

註

1) ここでは、現代日本の代表的な建築誌のひとつである『新建築』及び『新建築住宅特集』(1997年-2000年)に発表された住宅作品に伴う作品解説のうち、関係の複合性が明確に読み取れる72論説を資料としている。